

九国プレ 2013

解答・解説

九州国際大学附属中学校

— 国 語 —

《解答》 (配点) ㊶ 40点 ㊷ 40点 ㊸ 20点

㊶ 40点

問一 ㊶本来 ㊷成功 ㊸絶命 ㊹喜び ㊺敬い (各2点)

問二 A ウ B ア C エ (各3点)

問三 すべてが分 け まつたこと (3点)

問四 イ (3点)

問五 真剣な命のやり取り ・ 他の命を殺すこと (各3点)

問六 そして、自 (3点)

問七 エ (3点)

問八 イ (3点)

㊷ 40点

問一 ㊶すてき ㊷み ㊸きようちよう ㊹かつき ㊺かな (各2点)

問二 (例) 今までお兄さんの存在に (誰も) 触れなかったのに、
それが突然崩された (4点)

問三 エ (4点)

問四 (例) 自分で生徒会長になりたいと言った手前、後には引けなかった。 (4点)

問五 ウ (3点)

問六 (例) うまくないよ。 (4点)

問七 イ (3点)

問八 1 兄とは全然違ふ ・ 2 新しくなつ (各4点)

㊸ 20点

問一 ㊶イ ㊷ウ ㊸エ ㊹ア (各2点)

問二 ㊶ア ㊷イ ㊸ウ (各2点)

問三 ㊶遺 ㊷費 ㊸議 (各2点)

《解説》

一

問三 ぼう線部の理由を問う問題です。まずは、ぼう線部の指示代名詞「そういうこと」が示している内容を探し、前の段落の「生きることはく」からの二文を確認します。そして、ぼう線部のある段落を確認すると、最後に「くがその理由と思われれます。」という言葉があります。ですからその直前が答えとなります。

問四 主語と述語の問題です。主語とは「くは」「くが」にあたる言葉です。述語の「与えます」について、「何が与えるのかを考えると答えを探しやすくなります。

問五 ぼう線部をふくむ一文は、直前の一文を言い換えたものです。この二つの文を照らし合わせると、ぼう線部は「生きていくということがいかに大変なことなのか」ということとなります。生きていくことはどういうことなのかを書いているところを探し出せば、あとは空らんに合わせて合うように抜き出すだけです。

問七 ラマレラの男たちが、自分たちの行動をどう考えているのかを、前後の文章から読み取ります。すると、自分たちが奪った命に対して、食を与えてくれたものとして感謝の気持ちを歌や儀式によって表現しています。「使命」や「悪意」、「反省」と考えると、感謝の気持ちが生まれることは考えづらいので、自分たちの行動に責任をもっているという意味の、「自覚」が答えになります。

二

問一 ぼう線部の理由を答える問題です。「戸惑っていた」理由としては、その直前の「それが突然崩され」だからですが、これだと定められている文字数に足りません。そこで、「それ」の内容を探していくことが必要です。また、空らんの直前の言葉もヒントになり、探す場所がわかりやすくなります。

問三 タケルがフルートを演奏しようとした理由を問われています。まず、フルートという楽器にはどんな意味があるのかを探すと、リード文に「兄のものだと聞いたフルート」ということが書かれています。また、ぼう線部直後の段落に、「誠さんに近づこうとして」とあることから、誠さんの代わりをしようと思ったということが読み取れます。次に、誠さんの代わりをしようと思った理由について考えます。リード文に、この家族は「兄と似ているところを見つけては嬉しそうに顔をやる」とあることから、兄の代わりをすることでこの家族を喜ばせようとしていたというのがわかります。また、フルートを演奏したタケルの気持ちが * の直後に、「お兄さんのいた頃の家族がよみがえったのだろうか」と書かれているため、これらをふくめた「エ」が答えとなります。

問六 言葉の省略を補う問題です。この「全然」というタケルの言葉は、千波の「フルーツ、うまいね」という言葉を受けてのものです。その後のタケルの言葉に、「お兄さんみたにはいかないよ」とあることから、自分のフルーツ演奏について納得していないことがわかるため、千波の「うまいね」という言葉を否定する言葉を答えなければなりません。

問八 千波とお父さんの気持ちの変化を答える問題です。リード文などをよく読み、二人はタケルのことを兄と重ねて見ていることを確認します。それからの変化と考えると、タケル自身を認めることができたと予測することができます。また、二重線Aの直前に「ちゃんと僕の顔を見て、僕の名前を呼んだ。」や二重線Bの中に「タケル君が好き」と、タケルの存在を強調していることから、二人がタケルをタケルとして見ていることがわかります。それが確認できたら、空らんの前後の文章と本文を照らし合わせながら、同じような表現を探し出し、指定された文字数になるように抜き出すとよいでしょう。

三

問一 音読みとは、中国で読まれていた読み方が伝わって出来たものです。例えば「手」を「シュ」と読む読み方です。一般的には読んでも意味のわからないものとされていますが、「台」のように音読みしかないものもあるので注意が必要です。訓読みは、漢字に日本語をあてて読みます。例えば「手」を「て」と読んだり、「春」を「はる」と読む読み方です。どちらも漢字辞典を引くと探すことができますので、いろいろな漢字を調べてみてください。

問二 擬態語の問題です。擬態語とは、事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく音声にたとえて表した言葉です。普段、自然に使っている言葉ですので、どんなことを伝えるために擬態語を使っているのか考えてみましょう。

問三 最近の新聞やニュースに登場した言葉の漢字をたずねています。日ごろから世の中の動きに興味をもって過ごしましょう。

— 算 数 —

1 (小問集合) 4点×12 = 48点

整数、小数、分数の計算は何度も練習しましょう。また、速さや角度、面積を求めるなど基本的な問題です。問題をよく読んで解きましょう。

(1) 2334 (2) $\frac{11}{30}$ (3) 6 (4) 24

(5) $\frac{5}{6}$ $\frac{5}{6} = 0.83\dots$, $\frac{9}{7} = 1.28\dots$, とになるので, 1に近い数は $\frac{5}{6}$

(6) ① 14 ② 56

28の約数を並べると, 小さい順に1, 2, 4, 7, 14, 28です。

(7) 250 m

お店に寄った時間を除くと, 太郎君は家を出発して24分で6km離れた親せきの家に着いたので,
 $6000 \div 24 = 250$ m

(8) 66°

三角形の内角の和は180度で, 二等辺三角形は2つの底角が等しくなるので,

$$(180 - 48) \div 2 = 66$$

(9) 24 cm²

平行四辺形の面積は, 底辺×高さなので, $6 \times 4 = 24 \text{ cm}^2$

(10) 2000 円

兄が出したお金は, 3500円の $\frac{4}{7}$ 倍なので, $3500 \times \frac{4}{7} = 2000$ 円

(11) 6048 円

現在 5880 円の品物の定価は, $5880 \div 1.05 = 5600$ 円とわかります。

したがって, 平成 26 年 4 月からは, $5600 \times 1.08 = 6048$ 円となります。

2 (立体) 4点×3 = 12点

図をみて, その立体がイメージできるようになりましょう。また, 面積・体積も求められるようにしましょう。

(1) 6 個

(2) 72 cm²

$$9 \times 9 - 3 \times 3 = 72 \text{ cm}^2$$

(3) 702 cm³

$$9 \times 9 \times 9 - 3 \times 3 \times 3 = 702 \text{ cm}^3$$

3 (平面図形) 4点×3 = 12点

(1) 60°

(2) 6 cm²

$$3 \times 4 \div 2 = 6 \text{ cm}^2$$

(3) 19.1 cm²

中心角が 60° のおうぎ形と三角形 ECG に分けて、それぞれの面積を出します。

$$5 \times 5 \times 3.14 \times \frac{60}{360} + 3 \times 4 \div 2 = 13.083\cdots + 6 = 19.083\cdots$$

小数第 2 位を四捨五入して、19.1cm²

4 (グラフ) 4点×4 = 16点

グラフをみて、必要なことが読み取れるようになりましょう。

(1) 2400 m

グラフより船 P は、午前 8 時に港 A を出発し、午前 8 時 12 分に港 B に到着していることがわかります。つまり港 A から港 B まで行くのに 12 分かかります。

船 P は、毎分 200 m の速さで動いているので、 $200 \times 12 = 2400$ m だとわかります。

(2) 3分

船 P が港 A を出港するのは、1 回目が午前 8 時、2 回目が午前 8 時 30 分です。(1)より片道 12 分だとわかるので、 $30 - 12 \times 2 = 6$ 分が停泊した時間になります。

港 B と港 A で 2 回停泊しているの、1 回分は、 $6 \div 2 = 3$ 分だとわかります。

(3) 午前 8 時 17 分

船 P は午前 8 時 15 分に港 B を出ます。また船 Q は、午前 8 時 19 分に港 B に到着します。

すれ違ったのは、8 時 15 分と 8 時 19 分のちょうど真ん中の時刻になりますから、午前 8 時 17 分となります。

(4) 1200 m

午前 9 時 28 分では、船 P は港 A に停泊中です。船 Q は午前 9 時 34 分に港 A に到着するので、午前 9 時 28 分は、船 Q が港 A に到着する 6 分前の時刻ということになります。

したがって、船 P と船 Q の距離は $6 \times 200 = 1200$ m だとわかります。

5 (規則性) 4点×3 = 12点

(1) 30

(2) 35番目

$139 \div 4 = 34$ あまり 3 です。つまり、139 は 35 番目の四角形になることがわかります。

(3) 31番目

$480 \div 4 = 120$ ですから、117, 118, 119, 120 が並んでいる30番目の四角形と、
121, 122, 123, 124 が並んでいる 31 番目の四角形が候補となります。

$117+118+119+120=474$, $121+122+123+124=490$ なので、480 より大きくなるのは
31 番目の四角形だとわかります。